

(様式2)

学校関係者評価報告書

(愛媛県立土居高等学校)

学校番号(3)

評価実施日		令和5年2月15日(水)	
委員	氏名	所属等	備考
	近藤 寛	四国中央市立土居中学校 校長	継続
	高橋 誠司	四国中央市立土居文化会館 館長	新規
	立川 裕紀	伊予銀行土居支店 支店長	継続
	阪中 洋	福助工業株式会社 人事部長	継続
	古川 龍太郎	出雲大社土居教会 副長	継続
	高橋 芳清	土居高等学校PTA会長	継続

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
<p>1 学力・進路指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習態度は落ち着いており、積極的に授業に参加している。明るく楽しい雰囲気の中にも、真剣に取り組む姿勢が見られた。 一人一台端末や学習支援アプリなど、ICTの効果的な活用が図られているほか、グループワークを取り入れて学びを深めるなど、教員が工夫して、新しい学習の流れに対応した授業を行っている。 家庭学習時間は目標に届いておらず、1・2学年は、学習時間が減少した。進学に向けた学力向上のため、家庭学習の充実が望まれる。 進学では、国立大学及び難関私立大学に合格した。就職では、全ての生徒が、最終的には希望する企業の内定を得ており、地域からの評価も高い。 <p>2 生徒指導・安全教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内で出会う生徒は、明るく生き生きとしており、さわやかな挨拶をしてくれる。生徒一人一人に対する丁寧な指導の成果が出ている。 四国中央警察署と合同で、朝の通学指導や体験型の交通安全教室などを継続して実施できており、安全に登下校ができています。 SNSなどによるトラブルについては、県警による生徒向けの講座等を活用するとともに、実際の事例に基づいた啓発を行ってみたいかどうか。 <p>3 豊かな人間性・個性の伸長</p> <ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動や交流活動については、コロナ禍の中、昨年度よりも参加生徒数及び実施回数とも増加した。地域に貢献するために主体的に行動する生徒が育まれており、地域からの信頼も厚い。 生徒及び教員数が減少する中で、部活動の数は変更されていないため、部員不足による様々な課題が解決されていない。インターハイ出場を果たす部もある中で、部の再編や地域との連携について、具体的に考える必要がある。 <p>4 地域との連携・学校の魅力化</p> <ul style="list-style-type: none"> ラブリバー活動など、中学校から高校まで継続して、同一のボランティア活動に参加している生徒もいる。地域への愛着を持つ生徒を育てるために行われている取組について、今後も充実を図ってほしい。 学校ホームページの更新回数は昨年を大きく上回り、アクセス数も増加傾向にあるが、ホームページ以外の発信方法についても検討してはどうか。 土居高校に対しては、中学校の教員や保護者は好印象を持っているが、中学生の志願に結びつかず、市外へ流出する傾向がある。地域の中で、中高が更に連携を強める必要がある。 <p>5 現職教育・業務改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員の時間外労働時間の減少については、目標が達成できていない。業務の内容が多い中ではあるが、帰るべきときに帰る勇気を持つなど、各人が精神的な業務改善を行う必要もあるのではないかと。 中学校でも教員の時間外勤務が問題となっているが、意欲や熱意を持って業務に当たり、やりがいを感じている場合もある。業務を行う環境が適切な状況にあるかを随時確認していくことが求められる。 <p>6 その他、全般</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートで、どの項目も生徒の満足度が高く、教職員の評価が低くなっているが、学校はよく努力していると思う。家庭や地域と一体となって、更に高い教育効果を生み出す方法を、柔軟に考えてみてはどうか。 学校から地域及び保護者へ発信している情報が、伝わりづらい状況がある。学校の強みや特徴を、分かりやすく伝える方法等について改めて検討してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校マニフェストにも示されているとおり、今後も全教職員で「分かる授業」を目標に取り組み、確かな学力の定着を図る。 一人一台端末等の活用は進んでいるものの、教員によってまだ取組に差がある。研修等を実施しながら、全教職員が効果的な活用ができるように研究を進めていく。 家庭学習においても、各教科から一人一台端末を活用して課題を出すなどの方法を工夫し、学習習慣の確立を促していく。 個別指導とともに、インターンシップや企業訪問など、体験を重視した進路指導を継続し、一人一人の生徒の進路実現に丁寧に関わる。 引き続き、感染防止等に配慮しながら、挨拶運動や挨拶に関するアンケートを通して意識付けを図っていききたい。 交通安全に関する指導を一層充実させるため、PTAからの参加を再開し、地域ぐるみでの取組を目指す。 SNS等を使用する際の責任について、外部人材等と連携しながら校内で丁寧な指導を続けるとともに、保護者への周知を徹底する。 今後も、様々な生徒が生き生きと活動できる場面を多く設定していく。各コースの特徴を生かした交流活動等の実施を通して、学校の魅力の発信にもつなげたい。 部活動数の減少は、本校志願者の減少につながる恐れがあるため、高校の部活動に対する中学生のニーズ等を調査しながら慎重に検討したい。 引き続き、地域と連携して実施される活動への参加を呼び掛ける。特に、交流活動や各種コンテストなど、各コースの特徴を生かして参加できる活動等には優先して参加する。 生徒の活動状況が伝わる記事の掲載を心掛けるとともに、保護者へのメール連絡とも運動させながら情報発信を充実させたい。 中学生にとって身近な先輩の言葉は影響が大きいので、本校で活躍している生徒が、中学生に直接話をする機会を増やす。体験入学や説明会等の際に、直接交流できる場面を設定する。 校務支援システムや一人一台端末を用いた業務の効率化と、教職員の適切な業務配分に引き続き取り組む。会議や行事等の精選も兼ね、無理や無駄をなくし、更に改善を進めたい。 学校全体で目標を共有し、支え合いながら業務を進められるように調整する。教職員のメンタルヘルスは昨年度よりも改善が見られるため、衛生委員会等の一層の充実を図りたい。 生徒の満足度が高いことは喜ばしいが、より高い目標に向かって全校生徒が取り組むことができるように促しを続けていく。学校の取組が、生徒の成長と地域等への貢献につながっていることを、随時ホームページ等を通じて、丁寧に発信していく。 各コースの特徴を紹介する動画等を制作し、ホームページ上に公開することを検討したい。